



2014年3月28日

各位

会社名 マックスバリュ東海株式会社
 代表者名 代表取締役社長 神尾 啓治
 (コード番号: 8198 東証第二部)
 問合せ先 取締役経営管理本部長 浅倉 智
 (TEL. 055-989-5050代)
 当社の親会社 イオン株式会社
 代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
 (コード番号: 8267 東証第一部)

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2014年2月期において、下記のとおり特別損失を計上するとともに、2013年4月9日に公表した2014年2月期の業績予想を修正いたしますのでお知らせします。

記

1. 特別損失の計上

減損損失	637百万円
中途解約金	146百万円
固定資産除却損	70百万円
その他	60百万円
特別損失合計	916百万円

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社の保有する固定資産について将来の回収可能性を検討した結果、第3四半期までの計上額を含め、店舗に係る減損損失637百万円を計上いたします。その他、イオンキミサワ(株)との合併による物流センター解約金146百万円、改装等に伴う固定資産除却損70百万円、店舗閉鎖損失引当金繰入額等60百万円を含めた特別損失の合計は916百万円となる見込みです。

2. 業績予想の修正について

(1) 2014年2月期 連結業績予想の修正(2013年3月1日~2014年2月28日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	212,390	3,800	3,710	1,600	90.06
今回修正予想(B)	201,849	3,212	3,250	1,576	88.76
増減額(B-A)	10,541	588	460	24	
増減率(%)	5.0	15.5	12.4	1.5	
(ご参考) 前期実績 (2013年2月期)	167,721	3,531	3,636	1,570	90.44

(注) 2013年2月期よりマックスバリュ広州の設立に伴い連結決算を行っております。同社の決算期は12月末日であり、また営業開始は2013年1月であることから前期連結業績は個別業績と同額となっております。

(2) 2014年2月期 個別業績予想の修正(2013年3月1日~2014年2月28日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	211,640	4,200	4,120	1,930	108.64
今回修正予想(B)	200,911	3,629	3,668	1,827	102.88
増減額(B-A)	10,729	571	452	103	
増減率(%)	5.1	13.6	11.0	5.3	
(ご参考) 前期実績 (2013年2月期)	167,721	3,531	3,636	1,570	90.44

(3) 修正の理由

個別業績につきましては、業種業態を超えた競争の激化と購買チャネルの多様化が進展する中、お客さまの来店頻度の低下や買上点数の伸び悩みがみられております。更にイオンキミサワ㈱との合併によりインフラ等の統一を進めましたが、同社が合併前に推進していた独自ポイントカードを中心とした販促の取りやめの影響があるなど、売上高は当初予想より低調に推移いたしました。

一方で、統合効果などにより、売上総利益率は前期比0.3ポイント改善し、既存店における販売費及び一般管理費の削減も進み、通期の個別業績は2013年2月期に比べ、増収増益となる見込みであります。しかしながら業績予想に対しては第2四半期までのかい離を補えず、2013年4月9日に公表した業績予想を下回る見通しであります。

連結業績につきましては、連結子会社のマックスバリュ広州が2013年1月に開店した1号店マックスバリュ太陽新天地店の売上高は堅調に推移いたしました。また、販売・値引きロスのコントロールなど課題であった売上総利益率も第3四半期以降改善に向かい、営業損益は概ね計画どおりとなりました。

以上の経過及び上記「1. 特別損失の計上」により2014年2月期の業績予想を修正いたします。

なお、2013年4月9日に公表した配当予想につきましては、修正はありません。

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は今後様々な要因によって業績予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上